

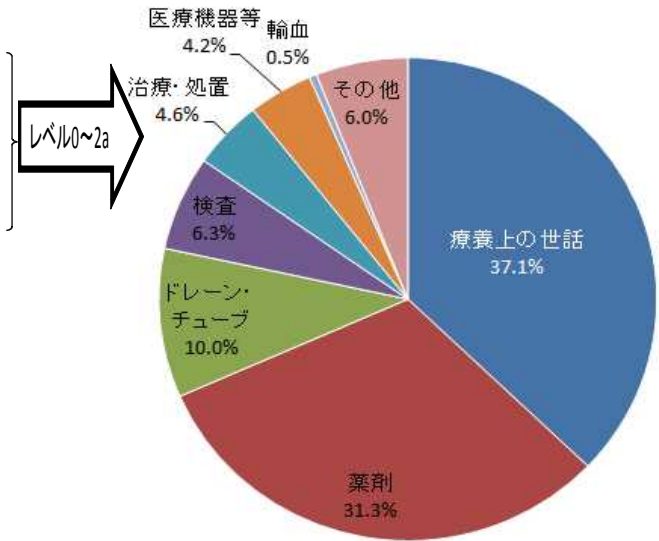
道立病院における医療事故等の発生状況

(平成26年度上期(平成26年4月～平成26年9月))

1 医療事故等のレベル別発生状況

区分	レベル	件数	割合
インシデント	レベル0	440	26.3%
	レベル1	1,047	62.4%
	小計	1,487	88.7%
医療事故	レベル2a	168	10.0%
	レベル2b	10	0.6%
	レベル3	8	0.5%
	レベル4	1	0.1%
	レベル5	2	0.1%
	小計	189	11.3%
合計		1,676	

2 レベル0～2aの種類別割合



【過去3年間の推移】

医療事故等件数	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
上期	1,612 (1)	1,492 (2)	1,750 (2)	1,676 (3)
下期	1,337 (0)	1,383 (3)	1,371 (0)	-
合計	2,949 (1)	2,875 (5)	3,121 (2)	1,676 (3)

※()内はレベル4以上で再掲

3 レベル2b～レベル5の発生状況

【一括公表(過誤なし)】

レベル	件数	事例
2b	8件	<ul style="list-style-type: none"> ○ 転倒により、胸椎圧迫骨折し、ベット上の安静を促し、経過観察とした。 ○ 杖歩行時に転倒し、前歯が折れ、歯科受診とした。 ○ 院内歩行時壁にぶつかり、前顎部の表皮を裂傷し、縫合した。 ○ 尿カテーテルを自己抜去した際に、先端部分が尿道に残存したため、除去処置を行った。
3	8件	<ul style="list-style-type: none"> ○ 転倒により、肋骨骨折。その後胸腔内に血液が溜まったため、体外へ排出するための処置を行った。 ○ 転倒により、右大腿骨頸部を骨折し、手術を行った。 ○ トイレの電球を自ら割って左頸部の静脈を切ったため、圧迫止血処置後、縫合を行った。 ○ 患者家族による食事介助中に誤嚥により窒息し、一時的に人工呼吸器を装着した。
4	1件	<ul style="list-style-type: none"> ○ 院内巡回時に呼吸停止しているのを発見し、救命措置を施し、自発呼吸は回復したが、意識障害が残った。
5	2件	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誤嚥により窒息し、救命措置を施したが、回復せず死亡した。 <p>※本件事故については、ご家族の同意を得られなかったため、個別公表を行わない。</p>

【概要公表(過誤あり)】

レベル	件数	事例	原因	改善・対応策
2b	2件	<p>【事例1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 輸液ポンプを使用して点滴治療を行っていた患者の穿刺部位に変色、腫脹及び水泡形成が発生したため、専門医による診察を行い、軟膏処置等を行った。 <p>【事例2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 酸素吸入を行っていた患者が、無呼吸発作を起こした際に、一時的に加圧用の酸素を投与する処置を行った。 ○ 処置終了後、誤って加圧用の酸素ではなく、元々の酸素吸入を止めてしまったため、心拍低下を招き、救命措置を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 輸液の管理を行う際の穿刺部位の確認が不十分であった。 ○ 加圧用酸素を止める際の手続き確認を怠った。 ○ 酸素開閉弁の設置位置が近く、間違いやすい環境であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「点滴漏れ対応マニュアル」に基づく、点滴確認方法や確認時間の遵守を徹底する。 ○ より確認しやすい点滴固定方法及び保護方法に見直した。 ○ 操作する機器に間違いがないかの確認と操作後の再確認について周知徹底する。 ○ 酸素開閉弁の位置を変更し、事故が発生しにくい環境に改善する。